

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名					
リハビリテーション医学1					
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名	実務経験	
柔道整復学科・夜間部	2年	2期	木下 修	○	
分野区分	教育課程		講義形式	単位	コマ数
専門基礎分野	疾病と傷害		座学	1	10
科目概要					
柔道整復師として臨床現場に立つ上でリハビリテーション医学を学ぶことは、臨床の包括的視点を身に付ける上で極めて重要である。本講義ではリハビリテーションの概念・歴史を前提とした上で近年のリハビリテーションの傾向を学び、更にリハビリテーション領域における機能解剖学・運動学・評価学の知識を身に付ける。また、各疾患に対するリハビリテーションの基本的な考え方を身に付けることを目標とする。					
目標					
一般目標(GIO) <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	柔道整復師を目指す上で必要なリハビリテーション医学の知識・理解を深め、修得する。リハビリテーションの概念を身に付けることにより、様々な疾患に対する包括的な対処・思考ができるようになることを目標とする。				
	到達目標(SBO) <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small>	1.リハビリテーションの概念・歴史を説明することができる。 2.リハビリテーション医学における機能解剖・生理学・運動学を理解する。 3.リハビリテーションの検査・評価法を理解し、一部を実施できる。 4.リハビリテーションに従事する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の違いを説明できる			
履修に必要な予備知識や技能					

1. 解剖学・生理学・運動学を踏まえて障がい者の疾患、疾病を理解ができる。
2. 疾患学を理解する

教科書・参考書							
リハビリテーション医学改定第4版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 出版社:南江堂							
受講上の注意							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	リハビリテーションの理念			P1~8	筆記用具		
第2回	リハビリテーションの対象と障がい者の実態			P9~18	筆記用具		
第3回	障がいの階層とアプローチ			P19~30	筆記用具		
第4回	リハビリテーション評価学:運動と機能解剖学			P31~37	筆記用具		
第5回	リハビリテーション評価学:・ADL評価			P38~46	筆記用具		
第6回	リハビリテーション評価学:画像診断			P47~56	筆記用具		
第7回	リハビリテーション障害学:障害評価			P57~67	筆記用具		
第8回	リハビリテーション障害学:高次脳機能障害			P67~73	筆記用具		
第9回	リハビリテーション障害学:ライフサイクルと各ステージの障がい特性			P73~79	筆記用具		
第10回	試験						
実務経験と本講義との関連について							
総合病院にて、集中治療・急性期・回復期医療、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、脳卒中専門病院、訪問リハビリテーション、保健所、介護認定審査委員、整形外科クリニックでリハビリテーションなどの医療機関を中心に実務を行いました。大学では、理学療法概論、リハビリテーション概論、運動療法概論、義肢装具学、物理療法学、高齢者理学療法学等の講義を担当していました。実務経験4 2年							
メールアドレス							
o-kinoshita@nihireha.ac.jp							